



■はじめに

台風に伴う大雨や暴風、局所的大雨等により、農作物に大きな被害をもたらすことがあります。自然災害が発生した場合、どのようなリスクが発生し、農業経営にどのような影響があるのかなど、日頃から意識して備えておくことも大切です。

農林水産省ホームページにある「自然災害等のリスクに備えるためのチェックリスト」などを参考に、平時からのリスクに対する備えなどができているか確認しましょう。

農業版 BCP(事業継続計画)とは

自然災害を含む緊急事態が発生した場合に、インフラや経営資源等について、被害を事前に想定し、被災後の早期復旧・事業再開に向けた計画を定めるものです。

詳細は、農林水産省ホームページに掲載されています。

https://www.maff.go.jp/j/keiei/maff_bcp.html

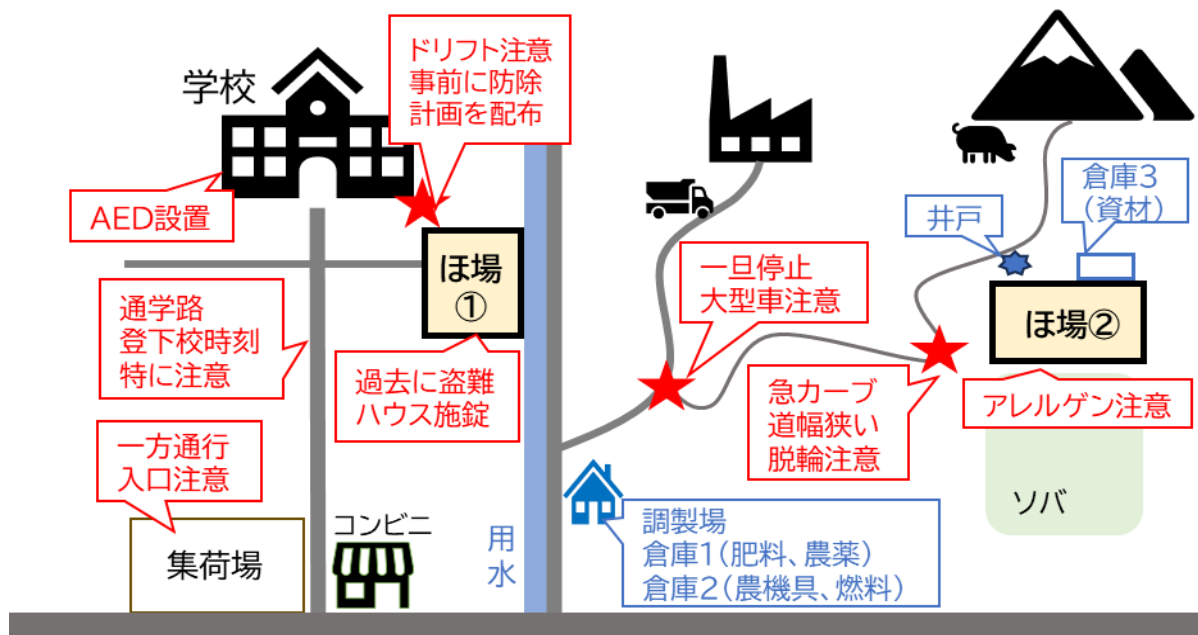


■トピックス 「秋の農作業安全確認運動(9月1日から10月31日)」

重点推進テーマは、「徹底しよう！農業機械の転落・転倒対策」です。

ほ場、施設や周辺にリスクがないか確認し、対策することで事故を未然に防ぎましょう。

<リスクマップの作成例>



■GAPでの重要な視点(労働安全)

- リスクマップを作成する際は、多角的な視点でリスクがないか確認しましょう。
- リスクを特定し、日頃から注意すべき点や必要な対策、改善を行うことで、環境保全、食品安全、労働安全に関わるリスク低減につながります。
- リスクマップや手順書は、作業員全員に情報共有や教育をしましょう。いつでも内容が確認できるように、見やすい場所への掲示や保管場所の確認が大切です。

●労働安全に関する項目をチェックしましょう！

- 危険な作業を行う人の力量(必要な免許、資格、講習の受講など)を確認していますか？
- 事故や怪我に備え、飲用水、救急箱、緊急連絡先、応急手当等の手順書がありますか？全ての作業場所にありますか？
- 作業に適した服装や防護装備を身に付けていますか？
- 応急処置の訓練を受けた人がいますか？
- 保険(労災保険、傷害共済など)に加入していますか？
- 機械や装備などは使用前に点検、整備をしてから扱っていますか？
- 危険な場所は表示や保護柵の設置など、事故を防止する対策をしていますか？



<事例紹介>



廃液を処理する場所は、周囲に流れないようにくぼ地をつくり、柵や掲示で立入を禁止している事例です。



段差がありつまずきやすい危険な場所に掲示をして、注意喚起をしている事例です。

■「ぎふ清流GAP評価制度」に関する情報

Webサイト 検索 [ぎふ清流GAP \(岐阜県公式ホームページ\)](#)
制度の概要(要領・要綱の閲覧)、申請様式等のダウンロード、認証農場の紹介

■「ぎふ清流GAP通信」に関するお問い合わせ

(一社)岐阜県農畜産公社 [ぎふ清流GAP推進センター](#)
電話:058-216-1566 FAX:058-216-1567 Eメール:gifu-gap@gifu-notiku.com

